

ロック元の原因側のセッションが、取得しているロック対象データの調査

ロック元セッションが確保（ロック）しているオブジェクトの名前調査

```
SELECT  ses.sid ,    ses.serial# ,    substr(dbo.object_name, 0, 10) ,
        lk.ADDR ,    lk.KADDR
FROM    v$lock lk ,    v$session ses ,    dba_objects dbo ,    v$sql sql
WHERE   ses.sid = '&ロック元セッション番号'
        AND ses.type = 'USER'
        AND lk.id1 = dbo.object_id
        AND lk.sid = ses.sid
        AND ses.sql_address = sql.address (+)
        AND ses.sql_hash_value = sql.hash_value (+) ;
```

SID	SUBSTR(DBO.OBJECT_NA	ADDR	KADDR
112	EMP	141FA25C	141FA28C
112	DEPT	141FA25C	141FA28C

↑
ロック確保オブジェクトロックされている側が、どちらのオブジェクトが、影響しているかは、ロックされた側の待機中 SQL 文から判断を行う

過去に実行していた SQL 文がロックしていた対象オブジェクトについては、DBA_LOCK ビューを調査しても分からない
(DBA_LOCK が、ある時点のロック情報を表しているものではないから)

ロック元の原因側のセッションが行っていた SQL 文の記録

調査不可能

ロックされた側の SQL 文しか調査できない

V\$LOCK では、処理した SQL 文についての SQL_ID を示す項目（列）は構成されていない

また、ID1 と ID2 については、ロックしているトランザクションの V\$TRANSACTION への連携キーなので、SQL 文自体は調査できない

V\$SESSION では、P1、P2 パラメータから待機イベント時の対象テーブルとレコードを求められる時がある

しかし、ロック元のセッションでは、処理が進んでいくので、SQL_ID は次の SQL 文の情報に移ってしまっているため、ロック操作を行った対象の SQL 文自体が不明である

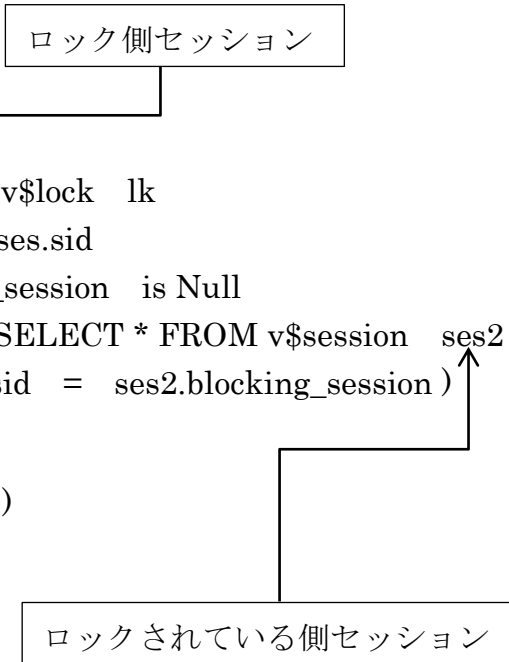
※ ロック元のセッションの SQL 文は、最新の SQL 文が表示されている。ロック

→ 元となった SQL 文は、これ以前に実行された過去の SQL 文の可能性はある

よって、ロック元の SQL 文を決定するには、ロック元の対象**セッションが実行してきた SQL 文を、時間を遡って洗い出し**、各 SQL 文が原因になっていないか個々に検討する必要がある

ロック元の原因側のセッションが現在実行している SQL 文処理
および、**直前** SQL 文処理

```
SELECT ses.sid, sql_text
FROM v$session ses, v$sql sql
WHERE exists ( SELECT * FROM v$lock lk
               WHERE lk.sid = ses.sid
                   AND ses.blocking_session is Null
                   AND EXISTS ( SELECT * FROM v$session ses2
                               WHERE ses.sid = ses2.blocking_session )
             )
AND ( ses.prev_sql_id = sql.sql_id
      OR ses.sql_id = sql.sql_id )
order by sid;
```



実行結果

SID	SQL_TEXT
118	Select * from emp where empno = 1 for update
118	Delete demp where deptno = 1
131	Select * from emp where empno= 4 for update

